

知事との県民対話集会（川上村）概要

- ・開催日時 令和5年1月18日（水） 午後2時から午後3時30分まで
- ・会場 川上村文化センター からまつ広場
- ・参加者 県民41名、由井川上村長、阿部知事、高橋佐久地域振興局長
- ・テーマ 産業を維持していくための村づくり

・主な発言（要旨）

【参加者】

・北海道では、農業経営の担い手不足により第三者継承が行われている。今後、長野県でも同様の問題が起こると思うが今後の展望をお聞きしたい。

【知事】

・第三者継承は、県も仕組みを考えないといけない。
・人口が減少する中で村や県を発展させていくためには、どうやって産業を継続させていくかは重要。若者とのマッチングも考えていきたい。

【参加者】

・有害鳥獣駆除の従事者が不足しており、従事者を増やす取組が重要だと思っている。土日の講習会の開催や講習会の回数を増やしてほしい。
・有害鳥獣駆除に関し県内に成功事例があるようだが、それを周知する場がない。

【知事】

・有害鳥獣を駆除してもらう人たちの高齢化や減少は課題、県全体で考えていきたい。
・成功事例の共有も考えたい。

【参加者】

・合理的な価格で安定供給といわれているが、今の価格が適正なのか。レタス1ケースあたりのコストも上がっているので、コスト面を加味した価格設定をしてほしい。

【知事】

・経済団体と価格転嫁を進める宣言をしたが、宣言しただけでなく実効が上がるようにしたい。
・農業は価格転嫁が難しいという話を聞く。どこに課題があるか分からないため、生産者、流通業者、消費者が一堂に会して話をしないとけない。適正な価格で物を取引する社会にしないと自分たちの生活の足元を切り崩すことになってしまう。
・県ではエシカル消費を進めているが、地元産、環境にやさしい商品、強制労働により生産されていない商品等を選択するなどの活動を進めていきたい。日常の消費行動を変えることで世の中が変わる。その旗振りを県で行ってほしい。

【参加者】

・親元就農について、新規就農並みの支援をしてもらいたい。親とは違う農業をしたい若者もいるため支援をお願いしたい。

【知事】

・親元就農と新規就農の支援に違いがある理由は、国の制度がそうなっているからであるが、問題意識を持って考えたい。
・都会の若い人たちの中には農業に関心がある人がたくさんいるが、職業の選択肢に入っていない。農業をやってきた人の思いをどのようにつないでいくか考えていきたい。

【参加者】

・肥料の高騰対策に関し、県や国の支援の要件には、化学肥料を2割削減するという項目がある。その2割を有機農業でとの考えであると思うが、コストがかかる。有機肥料導入への支援をお願いしたい。

【知事】

・有機農業を広めたい、有機給食を広めてほしいなどの意見はいろいろなところでいただく。県としてどこを応援すればいいか迷っている。有機肥料の部分は県として取り組み得る分野であると思う。飼料価格高騰の助成に関し化学肥料を削減することについては、制度的に課題があるかを確認したい。

【参加者】

・現在見直しが進められている外国人実習生、特定技能の問題。円安や年金、税金のシステム等の問題により日本に魅力がなくなっている。数年しかいない実習生になぜ年金加入を義務付けるのか。所得税についても問題がある。

【知事】

・外国人労働者に関してはいろいろな意味で曲がり角にあると思う。どうやって地域の農業の労働力を確保するのかをもう一度しっかり考え直さなければならない。年金、税金の話も問題意識をもって考えたい。仕組みなどを国に変えてもらわないといけないので、県としても考え方を整理したい。

【参加者】

・国道141号が通行できないと迂回路もなく孤立してしまう。迂回路の整備、中部横断自動車道の早期開通をお願いしたい。

【知事】

・中部横断自動車道は地域の首長の皆様から要望をいただいたので、早期の全線開通に向けて取り組む。道路についてはいろいろなところで必要だという声があるので、優先順位を付けながら対応していきたい。

【参加者】

・高校進学の際、自宅から通える学校は限られてしまう。寮や下宿という選択肢もあるが費用がかかる。リモートで授業ができれば負担は軽減される。教育環境の整備をお願いしたい。自然環境も良く、移住者が増えていると聞かすが、今後このような問題で定住に繋がらなくなるのではないかと心配である。

【知事】

・長野県の過疎地域の交通の不便さは、地域の皆さんの共通の悩みだと思う。オンライン授業は、私は認めた方がいいと思う。最近、文部科学省にオンライン授業を正規の授業として認めてほしいとお願いした。教育システム、交通、教育に係る費用負担はトータルで考えないといけない。
・長野県は教育の選択肢が少ないと言われる。高校の川上村分校をつくるなど柔軟なことを考えた方がいい。高校再編の議論をしているが、教育委員会には単に学校をくっつけるだけでなく、どのような特色ある学校をつくるのかを問題提起している。通学できず下宿などをしなければならない子どもたちが一定数いることについては、課題として受け止めて考えたい。

【参加者】

・東京都では子ども1人5,000円の給付金支給の発表があったが、長野県ではどのような子育て支援や少子化対策に取り組んでいるのか。

【知事】

・子どもの医療費助成や第3子以降の保育料低減に関しては県もお金を出している。小中学校の30人規模学級については他県に比べ1教室あたりの子どもの数を少なく抑えている。今年の4月から県内に戻ってくる学生の奨学金の返還を企業と県で行う制度をスタートさせる。ただし、これでは足りないと思っている。問題意識を持って考えたい。
・保育の話では、保育料を軽減する、保育士の処遇を改善する、保育士の配置を増やすなどそれぞれ意見がある。どれも税金で対応していかなければならない課題であるが、どれを優先させれば最善かを考えたい。
・東京都が月5,000円を給付する話については、長野県で同じことをやろうとすると百数十億円を捻出することになり、これは厳しい。本来子育てに関する現金給付は国が行うべき、地方が行うと競争になってしまう。東京都は税収の規模が桁違い。東京に集まった税収をもっと地方に配分できないのかと思っている。
・子育て支援は充実したい。本来国が行うべきだが、行わない場合は県として行うことになる。その場合には、今ある財源で行えることを行うか、又は、皆さんからいくらかのお金をいただいて子育て支援に充てるのかという議論もしていかなければならないと思う。

【参加者】

・障がいのある子や不登校の子へのサポートについて、少数の子の受け皿は近隣の市にはあるが川上村民は利用できない。そうすると村に住むのが難しくなってしまう。県全体で統一したサービスを提供してもらえればありがたい。

【知事】

・不登校の学びの支援については、フリースクールの認証制度をつくりたいと考えている。

【参加者】

・農家の場合は子どもが小さくても手伝いをする母親が多いので、夏の間は保育所に預けたいと思う人が多いが、前例がないので断られたという話も聞く。村に住んでいて様々なデメリットがあることは仕方ないが、それ以上のメリット、出産祝金や定住祝金などを村でも取り組んでいかないと住み続ける人は減少してしまうと思う。

【知事】

・保育園に預けにくいのも制度的な問題で打破したいと思っている。保育園は国が基準を決めている。基準は現状に合っているのか。例えば、季節的に預けるなら一時的に基準に合っていないなくてもよいのではないか。そこは整理して国に問題提起したいので一緒に考えたいと思う。

【参加者】

・千曲川河川敷の支障木除去をお願いしたい。防災、景観保護への協力をお願いしたい。

【知事】

・千曲川河川敷の樹木除去については、東日本台風災害以降、千曲川緊急対策プロジェクトにより河川の浚渫をこれまで以上に進めている。問題のある場所があれば教えてほしい。

【参加者】

・建設業も人手がない。当社独自で子ども手当を支給し、県の職場いきいきアドバンスカンパニーの認証も受けている。頑張っている企業を応援してほしい。努力しているが人が集まらない。

【知事】

・人手不足について、建設業協会からは、建設業界の求人に対して高校卒業の就職者が少ないという問題提起をいただいているので、検討していきたい。

【参加者】

・過疎化で交通が不便。村内の県道はすれ違いが難しい箇所がある。県道の整備をお願いしたい。県外に通じる道路が整備されると村のポテンシャルを活かせる。

【知事】

・道路が不便だと各地で言われる。優先順位をつけながら計画的に整備していく。

【参加者】

・交通は不便である。一方で情報通信網を活用すれば教育もできる。今後小学校の跡地をどう活用するのか。多様性と寛容性を持って村民で検討していきたい。

【知事】

・私も多様性や寛容性は重要だと思っている。外の人を積極的に受け入れるところとそうでないところではこれから差がつくと思う。